

講和談判筆記第十回本會議

明治三十八年八月二十九日午前十時五十五分開會

列席者前回ニ同シ(兩國全權委員ハ同日午前十時ヨリ祕密會議ヲ開キタリシカ)
(同五十分ヲ以テ終了シ同五十五分ヨリ通常會議ヲ開キタリ)

〔兩國全權委員ハ講和會議錄第九號ニ署名ヲ爲シタル後〕

小村男 八月二十三日ノ會議ニ於テ本員ヨリ提出シタル日本政府ノ妥協案ニ對スル露國政府ノ公然ノ回答如何ヲ知ラムト欲ス

「ウ井ッテ氏 諸右回答ハ此ノ文書中ニ記載シアリ(トテ左ノ回答書ノ原本ヲ取出シ之ヲ讀上ケタル後之ヲ小村男ニ手交セリ)

(覺書) (原文ハ附屬書第一號)

日本國全權委員カ八月二十三日ノ會議ニ於テ拾貳億圓ノ報償ヲ以テ薩哈噠島北部ヲ露國ニ還附センコトヲ發議シタル四箇條ノ覺書ハ露西亞帝國政府ニ於テ最モ慎重ナル研究ヲ遂ケタル所ナリ

前記覺書ニ對スル回答トシテ露西亞國全權委員ハ今茲ニ日本國全權委員ニ對シ俘虜給養費外ニ何等ノ支拂ヲ爲スコトハ講和會議開始ノ當初露西亞國ノ列擧シタル重要ノ一基礎ニ戾ルカ故ニ露西亞帝國政府ハ前記提議ヲ承諾スル能ハサル旨ヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

露西亞國全權委員ハ又薩哈噠全島ノ保有カ露西亞國ニ取リテ緊要ナルコトヲ明示

センカ爲メ甚タ重要ナル數多ノ理由ヲ曩ニ本會議ニ於テ述ヘ置キタリ
然レトモ皇帝陛下ハ極東平和ノ回復ニ資セントノ誠實ナル希望ヲ有セラル、一新
證トシテ薩哈噠島北部ヲ何等金錢上ノ報償ナクシテ露國ノ保有ニ委スルコトヲ條
件トシテ同島南部ヲ日本國ニ讓與スルコトニ同意アラセラル但シ此ノ場合ニ於テ
日本國ハ宗谷海峡通航ノ自由ヲ保證シ且其ノ占有スヘキ同島ノ部分ニ於テ何等軍
事上措置ヲ執ラサルヘキコトヲ約スヘキモノトス

今ヤ露西亞全權委員ハ該案ヲ日本國全權委員ノ考量ニ供スルニ際シ其ノ皇帝陛下
ノ命令ニ依リ該案ハ協商ヲ遂ケントスル唯一ノ目的ノ爲メニ露國ノ爲シ得ヘキ最
後ノ讓歩ナル旨ヲ日本國全權委員ニ聲明スルノ光榮ヲ有ス

小村男 (尙右回答書ヲ閱讀シタル後) 日本國全權委員ハ兩國妥協ノ方法ニ關シ本國政府
ノ訓令ニ依リ特別ノ宣言ヲ爲スノ光榮ヲ有ス(トテ左ノ宣言書ヲウヰッテ氏ニ手交セ
リ)

(宣言書)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第二號及第三號)

日本國政府ハ軍費ノ拂戻ヲ要求スルニ正當ナル理由ヲ有スルコトヲ確信スト雖露
西亞國政府カ該要求ヲ考量スルコトヲ絶對ニ拒絶シタルコトヲ領シ且日本國政府
カ該要求ヲ固持スルヨリ必然生スヘキ結果ヲ考量シ一ハ人道ト文明ノ爲メ一ハ日
露兩國眞正ノ利益ニ鑑ミ茲ニ日本國ノ既ニ行ヒタル薩哈噠島占領ヲ既成ノ事實ト
シテ露西亞國カ承認スルコトヲ條件トシテ前記軍費拂戻ノ要求ヲ撤回スヘキコト

0316

ヲ日本國全權委員ニ訓令セリ

「ウヰッテ」氏（ローゼン）男ト共ニ右宣言書ヲ熟讀シタル後露國皇帝陛下ノ最モ明截ナル大命アルニ依リ此ノ妥協案ニ對シテハ唯今提出セル文書ヲ以テ回答ト爲スノ外ナシ小村男 然ラハ已ムヲ得ス日本國政府ハ人道ノ爲メ世界ノ平和ヲ克復セムトスルノ極メテ誠實ナル希望ヲ抱クカ故ニ貴回答案ヲ承認スヘシ但シ薩哈噠島分界點ハ北緯五十度ヲ襲踏スヘク且軍事上措置ニ關スル制限ハ全ク相互的ナルヲ要ス又宗谷海峽ノ自由通航ヲ妨クル措置ヲ執ラストノ約束ハ之ヲ相互的ト爲シ韃靼海峽ニ關シ露國ヨリ之ヲ約束スルヲ要ス

「ウヰッテ」氏 軍事上措置ニ關スル制限及海峽ノ自由通航ヲ相互的トスルコトニハ異議ナシ但シ露國ハ從來同島内部ニモ沿岸ニモ未タ嘗テ何等軍事上措置ヲ施シタルコトナク又將來ニ於テモ之ヲ施サントスル意思ナキカ故ニ右ノ制限ヲ相互的ニスルカ如キハ實際上不必用ノコトナレトモ貴全權委員ノ希望ニ依リ之ヲ相互的ト爲スコトハ之ヲ諾ス將又主義トシテ同島分界點ヲ五十度ト爲スコトニハ異議ナキモ右境界ヲ精細ニ定ムルコトハ特別委員ニ依テ現場ニ於テ爲サレサルヘカラス

小村男 然リ次ニ兩國間此ノ際協定ヲ要スルコトハ同島ニ於ケル犯罪人置場ノ問題是ナリ是ハ講和條約中ノ個條ヲ以テ規定シ置クノ必要アルモノニ非スト雖免ニ角兩國ノ協定ヲ要スルモノナリ同島ノ犯罪人置場ハ從來日本政府ニ困難ヲ惹起シタルコト頗ル多ク北海道カ同島ト宗谷海峽ヲ隔ツルニ拘ハラス右囚徒ノ北海道ニ逃レ來リテ

0317

混雜ヲ惹起シタル場合頗ル多シ而シテ此ノ後同島ニ於テ日露境ヲ接スルニ至ラハ右ノ混雜ハ更ニ増加スヘシ就テハ此ノ後ハ同島北部ニ犯罪人置場ヲ維持セラレサラムコトヲ希望ス

「ウ井ッテ氏 本員ハ此ノ事ニ關シ適當ナル報道ヲ有セス此ノ事タルヤ微細ニ互ル一點ニシテ此處ニテ協議スルヲ要セサルコトナルヘシ且本員ハ如何ニ之ヲ處理シ得ヘキヤヲ知ラス又此ノ點ニ關シ何等ノ職權ヲモ有セス但シ本員ノ信スル所ニ依レハ後來露國カ同島ニ於テ囚徒置場ヲ設置スルノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ隣國人ニ對シ不愉快ノ原因ト爲ラサル様必ス萬般ノ措置ヲ採ルニ相違ナシ

小村男 貴全權委員ハ本件ヲ貴國政府ニ具申スルヲ得ヘシ

「ウ井ッテ氏 本員ハ何等ノ職權ヲ有セス是レ全ク内務省ノ所管ナリ

小村男 然レトモ本件ヲ露國政府ニ具申勸奨スルヲ得ヘキ理ナリ

「ウ井ッテ氏 本員ハ之カ爲メニ適當ノ地位ニ在ラス

小村男 貴全權委員ハ此ノ事ヲ日本全權委員ノ意見トシテ露國政府ニ取次クコトヲ得ヘケム

「ウ井ッテ氏 然リ、日本政府ノ希望トシテ之ヲ露國政府ニ取次クコトハ之ヲ爲スヲ得ヘシ

小村男 然ラハ是ヨリ第五條ノ文言ヲ決定スルコト、セム

「ウ井ッテ氏 然リ但シ此等ノコトハ專門技術官及書記官等ニ任シテ可ナラム

小村男 北緯五十度ヲ以テ境界線トスルコト及軍事的措置ニ對スル制限ヲ相互的ニスルコト等ハ之ヲ明ニスルヲ要ス

「ウ井ッテ」氏 然リ、但シ文言作成ノコトハ専門家等ニ任シテ可ナラム

小村男 此處ニテ確定シタル原則ニ依リ専門家等ヲシテ文言ヲ作成セシムルコトニ異議ナシ

「ウ井ッテ」氏 次ニ協議ヲ要スルハ専門事項擔當員ヲ列席セシムルノ件ナリ、今ヤ講和會議ハ諸般ノ重要問題ヲ議了シ、單ニ枝葉及細目ニノミ關スル問題ニ到着シタルニ付テハ條約文ノ起草等ニ關シ専門事項ヲ擔當スル隨員等ヲ此ノ席ニ招致スルコト得策ナルヘシト思ハル、則チ露國側ヨリ云ヘハ條約ノ文言ニ付テハ「マルテンス」財政上ノ事項ニ付テハ「シボフ」及「ボコチロフ」軍事上ノ事項ニ付テハ「エルモロフ」ノ如キ専門家ヲ今日午後招致セントスル次第ナルカ貴見如何

小村男 異存ナシ、我方ニ於テモ必要アル場合ニ於テハ専門事項擔當隨員ヲ招致スルコトトセム、然ルニ本日茲ニ全權委員カ議決スルヲ要スル諸件アリ、即チ（一）滿洲撤兵方法ノ件、（二）滿洲ニ於ケル双方鐵道區分點確定ノ件、及（三）鐵道保護ノ件是ナリ、而シテ先ツ右第一件ヨリ陳述セムニ、本件ニ付テハ條約第二條ニ於テ追加約款ヲ以テ之ヲ定ムヘシトノ明記アルカ故ニ、本員ハ之ニ依リ一ノ提案ヲ作成シタリ、就テハ之ヲ提出シテ貴全權委員ノ研究ニ供スルカ故ニ、之ニ對シテ貴見ヲ發表セラレムコトヲ望ム、而シテ若シ貴方ニ於テ他案アラハ之ヲ示サレムコトヲ請フ、トテ左ノ撤兵案ヲ「ウ井ッテ」氏ニ手交

0319

ス)

(撤兵案)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第四號及第五號)

下名ノ日本國皇帝陛下ノ全權委員及露西亞國皇帝陛下ノ全權委員ハ本日調印ノ講和
條約第二條ノ規定ヲ實行セムカ爲メニ左ノ追加約款ヲ協定セリ

日本國及露西亞國ハ滿洲及其ノ附近ニ於ケル兩國軍隊ヲ左記ノ三期ニ分チ全然且
同時ニ撤退スヘキコトヲ互ニ約ス

第一期 講和條約批准後十日以内ニ撤兵ヲ開始シ四箇月以内ニ終ルヘキコト

日本軍ハ新民廳、奉天、撫順、興京、懷仁、楚山ノ線以内及豆滿江右岸ニ撤退スヘキコト
露西亞軍ハ伯都訥、桃賴昭、山河屯、額木索、琿春ノ線以内及豆滿江左岸ニ撤退スヘキ

コト

第二期 第一期終了ヨリ四箇月以内ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ牛家屯、大石橋、岫巖、鳳凰城、安平河口ノ線以内ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ胡拉爾吉、齊々哈爾、墨爾根、愛琿ノ線以内ニ撤退スヘキコト

第三期 第二期終了ヨリ二箇月以内ニ撤兵ヲ終ルヘキコト

日本軍ハ遼東租借地及韓國境內ニ撤退スヘキコト

露西亞軍ハ露國領土內ニ撤退スヘキコト

前記追加約款ハ講和條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

「ウ井ッテ」氏 貴意ヲ領ス然レトモ滿洲撤兵ノ件ハ全ク特別ノ問題ニシテ現今滿洲ニ駐

0320

屯スルカ如キ大軍ヲ動カスノ方法ニ關スル細微ノ點ノ如キハ專門家ニ非サレハ之ヲ協定スルコト能ハサルモノナリ此ノ問題ニ就テハ數多技術上ノ困難アルカ故ニ本員ハ今茲ニ何等ノ意見ヲモ發表スルコト能ハス

小村男 本員提出ノ案ハ我陸軍官憲ノ承認ヲ經タルモノナリ

「ウ井ッテ」氏 露國側ニ於テハ本問題ニ就テ困難ヲ感スルコト貴方ニ比スレハ頗ル多シ滿洲駐屯ノ陸軍官憲ニ諮詢セサレハ精確ノ協定ヲ爲ス能ハサルナリ本員ハ決シテ故意ニ本問題ヲ回避セムトスルニ非サルナリ而シテ強テ本員ノ私見ヲ吐露スレハ滿洲撤兵ハ左ノ如キ原則ニ依テ之ヲ爲スヘキモノナリ(第一)戰闘ハ講和談判ノ趣旨ニ背クカ故ニ之ヲ終止セシムルカ爲メニ兩國間ニ一般的ノ協約ヲ爲スコト(第二)此ノ後兩軍互ニ援軍ヲ増遣セサルコト(第三)兩軍同時ニ撤退シ以テ各時期ニ於ケル兩軍隊ノ數ヲ略同一ニスルコト則チ是ナリ而シテ如何ニシテ此ノ原則ヲ實行スルヲ得ルヤ否ヤノ問題ハ重ニ鐵道ノ輸送力及土地ノ實況ニ依テ之ヲ決スヘキモノナルカ故ニ今此處ニ於テ解決スルコト困難ナリ必ス滿洲駐屯軍司令長官ノ意見ヲ徵セサルヘカラス

小村男 本問題ニ關シ露國陸軍官憲ノ意見ヲ徵セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ茲ニ之ニ關スル原則ヲ協定シ以テ之ヲ條約ニ附屬セシメサルヘカラス

「ウ井ッテ」氏 本員ハ貴全權委員ト根本ニ於テ同一ノ思想ヲ有ス然レトモ本問題ヲ判斷スルニ適セス

小村男 細目ニ互ル事項ハ戰場ニ在ル司令官ノ協定ニ任セ原則ハ今茲ニ之ヲ協定シ以

テ條約ニ附屬セシムルノ必要アリ

「ウ井ッテ氏」専門事項擔當員ヲ招致セム

小村男 本員ハ貴全權委員カ本件ヲ考量シ之ニ關スル貴方ノ案ヲ提出セラレムコトヲ

希望ス

「ウ井ッテ氏」諾

小村男 次ニ協定スヘキハ滿洲鐵道保護ノ件ナリ其他通商條約締結ノ件條約批准交換ノ件俘虜交換ノ件モ協定ヲ要スルコトナルカ該諸案ハ本日午後ノ會議ニ提出スルコト、セム茲ニハ滿洲鐵道保護ニ關スル案ヲ提出スルカ故ニ貴全權委員ノ考量ヲ煩ハス(トテ鐵道保護ニ關スル左ノ覺書ヲ「ウ井ッテ氏」ニ手交ス)

(覺書)

(原文英文及佛譯文ハ附屬書第六號及第七號)

日本國全權委員ハ滿洲ニ於ケル日露兩國鐵道ニ對シ必要ナル保護ヲ加ヘ且誤解ノ原由ヲ避ケムカ爲メニ講和條約附屬議定書ヲ以テ左ノ如ク一ノ協定ヲ爲サムコトヲ提議ス

清國ニ於テ自ラ其ノ責務ニ任シ且之ヲ實行シ得ルニ至ル迄日露兩帝國政府ハ各其ノ滿洲鐵道ノ線路財産及運輸ニ必要ナル保護ヲ加ヘムカ爲メ鐵道守備兵ヲ置クノ權利ヲ留保ス但シ前記兩國政府ハ右守備兵ハ如何ナル場合ニ於テモ鐵道一「キロメートル」ニ付五人ヲ超過セサルヘキコトヲ互ニ約ス

「ウ井ッテ氏」(右覺書ヲ熟讀シタル後)主義ニ於テハ本案ニ賛成ス但シ一「キロメートル」ニ

0322

付五人トハ注意ノ充分ナル案ニハ非サルヘシ是レ本員ノ經驗ニ基キタル感念ナリ

小村男 本員ハ右ノ兵數ニ付陸軍當局者ノ意見ヲ徴シタル上該案ヲ作成シタルモノ故
右兵數ハ實際ノ必要ニ應スルニ足ルモノト信スレトモ清國ニハ數多ノ非常且豫見シ
難キ事柄アルヲ以テ若シ將來右兵數ノ不足ナルヲ認メタルトキハ兩國ノ合意ヲ以テ
之ヲ増加スルヲ得ルコト、爲シテ可ナルヘシ要ハ鐵道守備兵數ヲ定ムルコトハ常ニ
兩國協議ノ上之ヲ爲スコト、約定スルニ在リ

「ウ井ッテ」氏 既ニ陳述セル如ク本員ハ主義上貴全權委員ト同意見ナリ然レトモ右兵數
ヲ今ヨリ五人ト定メ置クコトハ恐クハ賢明ナル措置ニ非ルヘシ他日平和ノ狀況全ク
回復シ滿洲全般靜謐ナルニ至ラハ該數ト雖或ハ實際上ノ必要ニ應スルニ足ラム然レ
トモ前陳ノ狀態ニ達セサル間ハ五人ノ員數必ス不足ナルヘシ依テ其時ニ至ル迄ハ兩
國各適當ト認ムル兵數ヲ置クコト、爲スコト然ルヘシ

小村男 該兵數ハ兩國ノ協議ヲ以テ之ヲ定サルヘカラス而シテ此事ニ何等困難アルヘ
キ理ナシ

「ウ井ッテ」氏 兩國政府ハ各其ノ所有スル鐵道ノ延長ニ從ヒ時々双方協議ノ上其ノ守備
兵ノ員數ヲ定ムルコト、セム乎

小村男 本件ハ正式ノ議定書ヲ以テ確定シ置クヲ要ス

「ウ井ッテ」氏 諸次ニ此處ニ協議ヲ要スルハ最も重要ナルコトニシテ兩國軍隊ノ衝突ヲ
豫防スルノ件即チ是ナリ今ヤ兩國講和談判大ニ進捗シ緊要問題總テ解決セラレタル

ニ拘ハラス若シ滿洲ニ於ケル兩國ノ軍隊尙互ニ相衝突スルカ如キコトアリテハ甚タ悲ムヘキカ故ニ右ノ如キコト發生セサル様熱望ニ堪ヘス

小村男 貴全權委員ニ於テ何等定マリタル案ヲ提出セラレムニハ本員等ハ直ニ之ニ考量ヲ加フヘシ

「ウ井ッテ氏 該案ハ則チ兩國皇帝陛下ニ於テ各勅命ヲ戰場ニ於ケル軍司令官ニ發シ彼等ヲシテ互ニ協議ノ上休戰ヲ規約セシムルコト、スルニ在ルヘシ就テハ双方全權委員ニ於テ今ヨリ直ニ本國政府ニ打電シテ本件ノ直ニ行ハル、コトニセム」トテ鉛筆ヲ取りテ右電信案ヲ起草セムトス

小村男 此ノ事ニ關シテハ本員モ直ニ電信ヲ以テ本國政府ニ請訓スヘキモ是レ君主ノ行動ニ關スルコト故本員ハ本國政府ノ訓令ニ接スル迄ハ何等精確ナル意見ヲ發表スルコト能ハス次ニ協定ヲ要スルハ講和條件第七條討議ノ際貴委員ニ於テ寬城子吉林間ノ支線ノ存否ヲ確メラル、迄懸案ト爲シ置キタル滿洲ニ於ケル兩國鐵道區分點ノ問題ナリ

「ウ井ッテ氏 然リ該件ニ就テハ先般返電ヲ得テ寬城子吉林間ノ鐵道ハ存在セサルコト明瞭トナリタルヲ以テ本員等ハ日本人カ前記地方間ノ鐵道ヲ敷設經營スルコトニ異議ナシ就テハ此ノ儀ヲ講和會議錄ニ記載シ置クコト、セム乎」ウ井ッテ氏露語ニテ斯ノ如クニシテ該線以南ハ日本ノ勢力範圍トナリ以北ハ露國ノ範圍トナルナラント獨語ス

0324

小村男 然リ、ソレニテ満足ナリ

「ウ井ッテ」氏 午後ノ會議ハ專門事項擔當員ヲ招致セム

小村男 如何ナル事項ニ關シテナリヤ

「ウ井ッテ」氏 軍事ニ關シテハ「エルモロフ」少將、條約文案ニ就テハ「ド、マルテンス」顧問官、財政ニ關シテハ「シポフ」局長等ナリ

小村男 異議ナシ

午後零時三十分休會

午後三時再開(兩國全權及講和會議書記官ノ外「マルテンス」「ポコチロフ」「エルモロフ」及「シポフ」ノ諸氏列席セリ)

小村男 今此處ニ協定スヘキ事項ニシテ今朝ノ會議ニ於テ約束シタルモノニ關シ案文ヲ提出シ貴全權委員ノ研究ヲ請ハムト欲ス第一ハ俘虜交換ニ關スル件第二ハ兩國間通商條約締結迄兩國ノ通商關係ヲ支配スヘキ方法ニ關スル件第三ハ滿洲ニ於テ兩國カ所有スヘキ鐵道ノ接續ニ關シテハ向後可成速カニ條約ヲ締結スルノ必要アルヘキカ故ニ此ノ事ヲ規定シタル一條ヲ條約中ニ插入シ置クノ件第四ハ條約批准交換ノ方法ニ關スル件ナリ日露兩國ノ距離非常ニ大ナルヲ以テ通常ノ外交手續ニ依テ批准ヲ交換スルニ於テハ長期ノ時日ヲ要スル次第ナルカ該條約ヲ一日モ速ニ實施スルコトハ一般ノ利益ナルヲ以テ何等便法ヲ設ケムコトヲ希望シ該案ヲ提出シタリ(トテ左ノ

0325

諸案ヲ提出ス)

(俘虜交換ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第八號及第九號)

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル一個若クハ數個ノ便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ

日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後……………日以内ニ俘虜ノ捕獲若クハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ル迄之カ保護給養ノ爲メニ各負擔シタル費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ……………日以内ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同様ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

(通商條約ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附
屬書第十號及第十一號)

日露兩國間一切ノ通商條約ハ戰爭ノ爲メ廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ルマテノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入稅及輸出稅稅關手續通過稅及噸稅並一方ノ代辦者臣民及船舶ニ對スル

他ノ一方ノ領土ニ於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル又露西亞帝國政府ハ浦鹽斯德ニ駐在スヘキ日本國正式領事ノ任命ヲ諾ス

(鐵道聯絡ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附屬
書第十二號及第十三號)

日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ増進シ且之ヲ便易ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定セムカ爲メ成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

(批准交換ノ件)

(原文英文及佛譯文ハ附屬
書第十四號及第十五號)

本條約ノ全文ハ裁可ヲ奏請スル爲メ電信ヲ以テ日本國皇帝陛下及露西亞國皇帝陛下ニ上奏スヘシ而シテ右裁可アリタル事實ノ證明書ハ……………ニ於テ日露兩國代表者間ニ可成速ニ上記ノ日附後……………日以内ニ之ヲ交換スヘシ上記裁可ハ批准ニ代ハルヘキモノニシテ一切ノ關係ニ於テ批准ト同一ノ價值及効力ヲ有シ本條約ハ右證明書ノ日附ヨリ全部ヲ通シテ完全ノ効力ヲ生スヘシ

ウヰッテ氏 此等ノ諸問題ヲ議スルニ先チ一般ノ事柄ニ付貴我ノ意見ヲ交換セムコトヲ希望ス本員ノ所見ニ依レハ今將ニ締結セラレムトスル條約ハ假令豫備條約ニハ非サルモ一般的ノモノタルヘキカ故ニ細微ニ互ル事項ハ該條約ノ範圍内ニ於テ此處ニ非スシテ例ヘハ哈爾賓ノ如キ土地ニ於テ協約セラルヘキモノナラムト思ハル而シテ日本ハ滿洲ニ近キカ故ニ右談判地ヲ哈爾賓ト定ムルモ日本ニ取リテハ不便ナカルヘシ貴見如何

0327

小村男 本講和條約ヲ可成速ニ實施スルノ必要アルヲ以テ此處ニ於テ右本條約ヲ締結スルヲ可トス

「ウヰッテ」氏 若シ一切ノ事項ヲ此處ニ於テ協定スルヲ得ハ貴見ノ如クニシテ可ナリト雖此處ニテハ協定シ得サル事柄モアルヘシ

小村男 此處ニテ細微ノ諸點ヲ協定スルコト能ハサル事柄ニ關シテハ其ノ原則ヲ此處ニテ協定セハ講和條約ヲ實施スルヲ得ヘシ是レ貴我兩國ノ利益ナリ依テ此處ニ於テ協定シ得ヘキ必要ノ諸事項ハ一切之ヲ協定シ獨リ細目ニ互リ若クハ地方的ノ性質ヲ有スルニ由リ此處ニテ直ニ協定スル能ハサル事項ノミヲ追テ兩國特別委員ヲシテ本條約ニ於テ決定セル主意ニ遵由シテ協定セシムルコト、爲スヘシ

「ウヰッテ」氏 貴見ニ贊成ス

小村男 今提出シタル諸案ハ皆極メテ大體ノミニ關スルモノニシテ少シモ専門的特別ノ智識ヲ要セサルモノナリ又今朝討議シタル滿洲撤兵ノ件モ亦此處ニテハ極メテ大體ノ事柄ノミヲ規約シテ可ナリ

「ウヰッテ」氏 (俘虜交換ニ關スル案文ヲ讀ミタル上)佛文ヨリ成レル本件ノ文言ハ恐クハ修正ヲ要スヘキモ本案ノ主義ニ關シテハ何等ノ異議ヲ有セス但シ該案ノ末文中計算書ノ交換後……………日以内ニ云々「トアルニ關シテハ一考ヲ要ス双方共善意ヲ以テ右計算書ヲ提出スヘキカ故ニ右計算ノ金額ニ對シ異議等ハ萬々之レ無カラムモ若シ右計算並其ノ組立等ヲ檢查シタル結果異議アル場合ニ於テハ如何ニ爲スヘキヤ豫メ定メ

タル期限内ニ支拂フコト能ハサル場合モアルヘシ

小村男 此ノ點ニ付貴全權委員ニ於テ若シ懸念アラハ今此處ニ右費用ノ總額ヲ見積リ
右見積總額ニテ協定スルコト、爲シテモ宜シ

「ウヰッテ」氏 本員等ハ右總額ヲ見積ル爲メニ必要ナル材料ヲ此處ニ有セス

小村男 然ラハ貴方ニ於テ別ニ何等考案アリヤ若シアラハ本員等ハ之ニ考量ヲ加フヘ
シ又本員等ニ於テハ右見積總額ヲ確ムル爲メニ本國政府ニ打電シテ目的ヲ達スルヲ
得ヘシ

「ウヰッテ」氏 此處ニ考量ヲ加フヘキハ見積總額ニ非スシテ該見積ニ用フル計算基礎ノ
材料如何ニ在リ材料ノ當否ハ深ク検査ヲ要スルモノナレトモ右材料ニシテ正當ナル
以上ハ見積額ノ多寡ノ如キハ顧ミルニ足ラサルモノナリ尤モ右材料ト雖本員ハ「シボ
」局長ト共ニ之ヲ定メ得サルニハ非ス

之ヲ要スルニ貴案ニハ大體賛成ナレトモ唯支拂期限ヲ此處ニテ豫定セムトスル點ニ
關シ全然同意ニ至ラサルノミ尤モ計算書査閱等ノ手續濟ミタル上ハ露國政府ハ直ニ
諸費用ヲ支拂フ手續ヲ爲スヘシ

小村男 貴意ヲ領ス就テハ「計算書ノ交換後……………日內ニ云々」トアルヲ改メテ「可成速ニ」
ト爲シテモ差支ナシ

「ウヰッテ」氏 然ラハ本員ハ全然貴案ニ賛成ス

(次ニ同氏ハ通商關係ニ關スル我提案ヲ熟讀シタル後)

「ウヰッテ」氏 該案ニ關シテモ大體ニ於テ何等ノ異議ナシ然レトモ戰爭ト條約トノ關係ニ付本員ハ疑ヲ存ス戰爭ハ果シテ諸條約ヲ廢止セシムルモノナル乎
 本員ノ私見ニ依レハ戰爭ハ單ニ條約ノ效力ヲ停止スルノミニシテ平和克復ト共ニ其ノ效力ヲ回復スルモノナレトモ本員ハ國際法ノ專門家ニ非サルカ故ニ「ド、マルテンス」氏ノ意見ヲ徵セムコトヲ希望ス但シ本件ハ本員ノ強テ主張スルモノニ非ス
 「ド、マルテンス」氏 外交上ノ慣例ニ依レハ講和條約中特ニ一條ヲ設ケ戰爭前存在シタリシ諸條約ハ其ノ舊來ノ効力ヲ回復シテ再ヒ實施セラルヘキ旨ヲ規定シ以テ戰爭前ノ狀態ヲ回復セシムルコト、爲リ居レリ

小村男爵 今「ド、マルテンス」氏ノ陳述セラレタル如ク講和條約中特ニ戰爭前ノ條約ヲ再ヒ實施スル旨規定セル一條ヲ設クルコトノ慣例ハ即チ國際法ノ原則トシテ講和條約締結ノ事實ハ當然因テ以テ直ニ戰爭前ノ諸條約ヲ復活セシムルモノト認メ居ラサル證據ナリ若シ當然復活スルモノナラハ斯ル規定ヲ特設スル必要ナカルヘシ此ノ慣例タルヤ却テ戰爭ハ諸條約ヲ廢止セシムルモノニシテ單ニ其ノ効力ヲ停止セシムルモノニ非ストスル原則ヲ證明スルモノナリ扱本問題解決ノ方法ニ二様アリ一ハ講和條約中一條ヲ特設シテ戰爭前實施セラレタリシ條約ヲ復活セシムルニ在リテ他ノ一ハ新ニ條約ヲ締結スルニ存ス本員等ノ案ハ即チ此ノ第二ノ方法ヲ採用シタルモノナリ蓋シ日露兩國通商上ノ利益ヲ顧ミレハ我提案ノ如ク此ノ際新條約ヲ締結スルヲ以テ得策ト爲セハナリ而テ右新條約締結ノ場合ニハ最惠國條款ヲ包含スル諸外國トノ條

0330

約ヲ基礎トスルヲ要スルナルヘシ又我提案中……………新通商航海條約ノ締結……………」

前ニ戰爭前行ハレタリシ條約ヲ基礎トセル」ノ文字ヲ附加スルモ可ナリ

「ウヰッテ氏 本員ハ強テ貴案ニ對シ異議ヲ有セス貴案ニハ最惠國待遇ニ關スル保障アルカ故ニ我方ニ取リテ實際上差支ナカランモ便利上ヨリ之ヲ見レハ寧ロ講和條約中ノ一條ニ於テ單ニ戰爭前存在セシ諸條約ヲ復活セシメ必要アラハ之ニ修正ヲ加ヘ以テ新條約ノ締結迄其ノ效力ヲ繼續セシムヘシト定ムルヲ可トスヘシ

小村男 貴全權委員ニ於テ重大ナル異議ナキ限りハ我案ヲ維持セムコトヲ希望ス最惠國待遇主義ヲ新ニ締結スヘキ條約ノ基礎ト爲スヘキ旨ヲ附加スルモ可ナリ

「ウヰッテ氏 然レトモ貴方ニ於テ強テ該案ヲ維持セントスル趣意ハ何處ニ在リヤ願クハ眞率ニ說示セラレヨ本件ハ究竟重要ノモノニ非サルカ故ニ本員ノ固執セムト欲スル點ニ非ルナリ

小村男 既ニ略陳シタル如ク兩國通商上双方ノ利益ニ鑑ミ舊條約中或ハ復活スルヲ得サルヘキ細目ノ點アルカ故ニ此ノ際新條約ヲ締結スルヲ可トスルナリ右締結迄ハ本員ノ發議セル方法ニ依リ通商關係ノ取扱ヲ規定スヘク又右締結スヘキ新條約ハ主義トシテ實際舊條約ト大差ナカルヘク日本政府ノ意思モ亦此ニ在リ

「ウヰッテ氏 然ラハ貴案ニ贊成ス就テハ今般締結スヘキ新條約ハ戰爭前ノ舊條約ヲ基礎トスヘキ旨條文中ニ明記シ置カレタシ

小村男 諾

0331

(此ノ間「ボコチロフ」氏等類ニ本條草案末文浦鹽斯德領事任命ノ問題ニ付「ウ井ッテ」氏ノ注意ヲ促ス)

「ウ井ッテ」氏 扱爰ニ質問セント欲スルハ該案最後ノ一句ナリ該句ニハ浦鹽斯德ニ於ケル日本領事ノ件ヲ規定シタリ本員ハ此事ニツキ異議アルヘシトモ思ハサレトモ何ノ理由アリテ此ノ如ク單ニ浦鹽斯德駐在領事ノコトノミヲ書キ表ハシタルヤ之ヲ讀ム者ハ必ス然ラハ他ノ諸地點ニ於ケル領事ノコトハ如何トノ問題ヲ發スヘシ

小村男 他ノ諸地點ニ於ケル領事ノコトハ該案ノ首部ニ於ケル最惠國待遇ニ關スル規定ニテ明白ナリ而シテ浦鹽斯德港ニ於ケル領事ノ件ノミヲ玆ニ掲ケタルハ該件ハ戰爭前久シク日露間ノ交渉問題タリシカ故ニ此ノ際之ヲ解決セムト欲シタルニ因ルモノナリ

「ウ井ッテ」氏 此ノ點ハ強テ固執セラル、ノ必要ナカラム本員ハ先年親シク同地ヲ巡視シテ日本ノ駐在官吏ニ面會シタリ本員ハ其ノ正式領事タルヤ將タ貿易事務官タルヤヲモ知ラサリキ(此ノ時「プランソン」氏「ウ井ッテ」氏ニ私語シテ浦鹽斯德ニハ未タ外國領事ノ駐在ヲ許サルコトヲ注意ス)

之ヲ要スルニ貴案ハ露國ヲシテ他諸列國ノ領事ヲモ浦鹽斯德ニ駐在セシムルヲ要スルニ至ラシムルモノナリ貴國ハ旅順及大連ニ外國領事ヲ駐在セシムルコトヲ諾セラハヘキヤ若シ貴方ニ於テ浦鹽斯德駐在領事ノ件ヲ固執セラル、ニ於テハ我方ヨリ貴國ニ於ケル同様ノ地點ニ露國領事ヲ駐在セシムルノ件ヲ主張スルヲ要スルニ立到ル

0332

ヘシ孰レニシテモ此ノ事ハ講和條約中ニ規定スルヲ要スル程重要ナルモノニ非ルナ
リ

小村男 然リ此ノ事タルヤ畢竟通商上ノ一事項タルニ止マルモノナルカ故ニ通商條約
談判ノ際之ヲ商議スルコト、セム

「ウ井ッテ」氏 此ノ如クスルコトハ今之ヲ定ムルヨリモ遙ニ勝レリ

小村男 就テハ該一句ヲ削除セム

「ウ井ッテ」氏 (日露兩國鐵道接續事務協定ノ件ニ關スル我提案ヲ閱讀シタル後本員ハ之
ニ對シ何等ノ異議ナシト云ヒ次ニ批准交換ニ關スル我提案ヲ閱讀シタル後本員ハ外
交官ニ非サルカ故ニ此等專門ノ事項ニ關シ充分ノ智識ヲ有セサレトモ原來外交ハ頗
ル保守的ナル一部門ナルカ故ニ該提案ノ如キ前例ニ反セル異常ナル方法ハ本員等ヨ
リ之ヲ露國外務省ニ電申ストモ受理セラレ難シト思ハル又實際上ヨリ之ヲ觀察スル
モ本條約ニ關シ皇帝其ノ他ノ人々ニ於テ萬一疑問アルニ際シ如何ニシテ之ヲ説明ス
ルヲ得ヘキヤ到底本案ノ如キ電報ノ方法ニテハ其ノ目的ヲ達スル能ハサルヘシ
小村男 本案ハ畢竟可成速ニ條約ヲ實施セントノ精神ニ依リ作成セラレタルモノナレ
ハ該精神ヲ貫キ得ルモノナラムニハ如何ナル方法ニテモ可ナリ貴方ニ於テハ何等簡
便迅速ナル方法ヲ案出セラレサルヤ

「ド、マルテンス」氏 千八百六十六年普墺戰爭及千八百七十一年普佛戰爭ノ先例ヲ見ルニ
兩國全權委員ハ先ツ終局的平和條約ノ基礎タルヘキ豫備條約ヲ締結シタル後本條約

ノ談判ヲ開始シタリ

小村男 此處ニハ本條約ヲ締結スルヲ可トス他ノ諸講和條約ト異ナリテ此度協議ヲ遂ケタル條約ハ其ノ箇條實ニ少シ

「ウ井ッテ」氏 實際上ノ便利ヨリ考ヘ下ノ如クセハ可ナラム則チ双方全權委員條約ヲ締結調印シタル後各之ヲ携ヘテ本國ニ歸リ兩國皇帝陛下ノ批准ヲ受クルコト、シ其ノ上ハ電信ノ方法ヲ以テ諸般ノ手續ヲ履行スルコト、セハ可ナラスヤ

小村男 然ラハ外交上通常ノ手續ニ依ルコト、シ唯批准ノ事實ヲ通知スルノ手續ハ電信ノ方法ヲ以テ例ヘハ華盛頓府ニ於テ之ヲ行フコト、セム

「ウ井ッテ」氏 然リ而シテ右批准通知ノアリタル時ヨリ條約ハ直ニ實施セラル、コト、セム

小村男 然リ此ノ意義ヲ以テ本條ヲ起草セシムルコト、セム

「ウ井ッテ」氏 右批准ノ事實ヲ通知スルノ方法ニ關シテハ露國ハ在東京佛國公使ニ、日本ハ在聖彼得堡府米國大使ニ之ヲ通知シ右兩官ヨリ各其ノ駐劄國政府ニ通知スルコト、爲シテハ如何

小村男 ソレニテモ可ナリ

「ウ井ッテ」氏 本員ハ此ノ方法ヲ以テ他ノ方法ヨリモ勝リタルモノト信ス現今ヤ條約文確定ノ時期ニ達シタリ

小村男 此ノ事務ハ双方ノ會議附書記官等ニ一任シテ然ルヘシ書記官等ニ於テ成案ヲ

0334

具シタル後兩國全權委員之ヲ檢閲ノ上確定スルコト、セハ如何

「ウ井ッテ」氏 會議附書記官等ハ重ニ會議錄調製等ノ爲メ任命セラレタルモノニシテ條約文確定ノ如キ重大ナル任務ノ如キハ經驗アル専門家ノ手ニ付スヘキモノト信ス就テハ我方ニ於テハ「ド、マルテシス」氏ニ此ノ任務ヲ授クルコト、セム

小村男 我方ニ於テハ「デニソン」氏ニ此ノ任務ヲ授ケム而シテ他ノ者ヲ之ニ附スルコトトセム

「ウ井ッテ」氏 我方ニテハ「ド、マルテシス」氏ニ「ボコチロフ」及「ド、プランソン」兩氏ヲ附セム

小村男 「デニソン」氏ニハ安達落合兩氏ヲ附セム

「ローゼン」男 滿洲撤兵案ノコトニ付一言セム本員等ハ此處ニ單ニ大要ノミヲ協定シ得ルニ過キス而シテ同伴ハ戰鬭行爲熄止ニ關スル件ト同文書ニ於テ規定シテハ如何

小村男 休戰ノコト、撤兵ノコト、ハ全然別ニ之ヲ規定スヘキモノナリ依テ本員ハ貴方ニ於テ條約ニ附屬スヘキ撤兵約款ノ案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

「ウ井ッテ」氏 諾、此處ニテ爲サムカ

小村男 否、旅館ニ歸リテ之ヲ爲スヲ可トス

「ウ井ッテ」氏 戰鬭ノ休止ハ封鎖ヲモ熄止セシムルカ

小村男 然ラス休戰ハ商船拿捕ニ適用セラレサルモノナリ

「ド、マルテシス」氏 日露兩國間ニ於テハ右ノ如クニテモ差支ナカルヘシト雖中立國ト交戰國トノ關係ニ就テハ果シテ右ノ如クニテ可ナリヤ

小村男 然リ休戦ハ畢竟一時的ノ戰闘休止ニ過キサレハナリ

「ウ井ッテ」氏 今後一週間内ニ條約ニ署名スルヲ得ヘキヤ貴見如何

小村男 是レ重ニ起草委員諸氏ノ勉勵如何ニ關スルコトナリ速ナレハ速ナル丈利益アルモノナリ

「ウ井ッテ」氏 然リ

(コレヨリ左記ノ新聞通知案ヲ定メタル上午午後五時ヲ以テ散會セリ)

(新聞通知文)

(原文英文ハ附屬書第十六號)

八月二十九日午前ノ會議ニ於テ一切ノ問題ハ主義上協定セラレタルヲ以テ細目ニ互ル諸點ノ討議ニ移ルニ決シ同日午後ノ會議ニ於テ細目ヲ討議シタル後講和條約起草ノ事務ヲ日本國外務省法律顧問「デニソン」氏及露國外務省附「コンセイエー」プリ「ヴェー」ド、マルテンス氏ニ委任シ可成速ニ其ノ事務ヲ完成セシムルコト、爲シタリ

0336

第一號

La notice présentée par les Plénipotentiaires du Japon à la séance du 23 Août et formulant en quatre points la proposition de restaurer à la Russie la partie Nord de Sakhaline moyennant une somme de 1,200,000,000 iens, a fait l'objet de la plus sérieuse considération de la part du Gouvernement Impérial de Russie.

En réponse à cette notice, les Plénipotentiaires de Russie ont l'honneur d'informer les Plénipotentiaires du Japon que le versement de toute somme, exceptée celle pour l'entretien des prisonniers de guerre, étant contraire à l'une des principales bases exposées par la Russie lors de l'ouverture des négociations, le Gouvernement Impérial de Russie se voit dans l'impossibilité de consentir à la proposition précitée.

Les Plénipotentiaires de Russie ont également présenté à la Conférence des raisons très sérieuses pour démontrer l'importance pour la Russie de la possession de toute l'île de Sakhaline.

Toutefois Sa Majesté l'Empereur, afin de donner un nouveau témoignage de Son sincère désir de contribuer au rétablissement de la paix en Extrême Orient, consent à céder au Japon la partie sud de l'île de Sakhaline, à condition que la partie nord reste en la possession de la Russie, sans aucune compensation pécunière. Il est bien entendu que le Japon devra dans ce cas garantir la liberté de navigation dans le détroit de Lapérouse et s'engager à ne prendre aucune mesure militaire dans la partie de Sakhaline occupée par lui.

En présentant ce projet à la considération des Plénipotentiaires du Japon, les Plénipotentiaires de Russie ont l'honneur de déclarer sur l'ordre de leur Auguste Maître, que ce projet forme la dernière concession que la Russie puisse faire dans le but unique d'arriver à une entente.

第二號

The Japanese Government sincerely believe that they are justly entitled to claim reimbursement of the expenses of the war, but taking note of the absolute refusal of the Russian Government to entertain such a claim, and considering the consequences that would inevitably ensue if they should persist in their demand, have, for the sake of humanity and civilization and in recognition of the true interest of Japan and Russia, authorized the Plenipotentiaries of Japan to offer to withdraw the claim to such reimbursement, provided Russia recognizes as a fait accompli the occupation of the Island of Saghalien by Japan.

第三號

(Traduction)

Le Gouvernement Japonais croit sincèrement qu'il a des justes titres de réclamer le remboursement des dépenses de la guerre, mais constatant le refus absolu du Gouvernement Russe de traiter cette réclamation et considérant les conséquences qui résulteraient inévitablement s'il persistait dans sa demande, il a, pour la cause de l'humanité et de la civilisation et en reconnaissance des vrais intérêts du Japon et de la Russie, autorisé les Plénipotentiaires du Japon à offrir de retirer la réclamation de ce remboursement, pourvu que la Russie reconnaisse comme un fait accompli l'occupation de l'Ile de Sakhaline par le Japon.

第四號

The undersigned, Plenipotentiaries of His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the Emperor of Russia, in execution of the provisions of Article II of the Treaty of Peace signed this day, have agreed upon the following Additional Article:

Japan and Russia mutually engage completely and simultaneously to withdraw their military forces from Manchuria and its neighbourhood in three periods, as follows:

1st Period.—The withdrawals shall begin within ten days after the ratification of the Treaty of Peace and be completed within four months.—

The Japanese forces in Manchuria, are to be withdrawn within a line connecting Hsin-min-tin, Moukden, Fu-shun, Hseng-King, Hwai-jen and Chho-san, and the Japanese forces on the Russo-Corean frontier, are to be withdrawn to the right bank of the River Tumen. The Russian forces in Manchuria, are to be withdrawn within a line connecting Petua, Tao-lai-chao, Shan-ho-tun, Omoso and Hunchun, and the Russian forces on the Russo-Corean frontier are to be withdrawn to the left bank of the River Tumen.

2nd Period.—The withdrawals shall be completed within four months from the expiration of the 1st period.—

The Japanese forces are to be withdrawn within a line connecting Niu-cha-tun, Ta-shih-kiao, Hsiu-yen, Feng-hwang-cheng and the mouth of the Anping River (Anping-ho).

The Russian forces are to be withdrawn within a line connecting Hu-lar-chi, Tsi-tsi-har, Merguen and Aihun.

0338

3rd Period.—The withdrawals shall be completed within two months from the expiration of the 2nd period.

The Japanese forces are to be withdrawn within the leased territory of Liaotung and the frontiers of Corea.

The Russian forces are to be withdrawn within Russian territory.

The foregoing Additional Article shall be considered as ratified with the ratification of the Treaty of Peace.

第五號

(Translation)

Les soussignés, Plénipotentiaires de Sa Majesté l'Empereur du Japon et Plénipotentiaires de Sa Majesté l'Empereur de Russie, en exécution des dispositions de l'Article II du Traité de Paix, signé ce jour-ci, sont convenus sur les Articles Additionnels suivants :

Le Japon et la Russie s'engagent mutuellement à retirer complètement et simultanément leurs forces militaires de la Manchourie et de son voisinage en trois périodes comme suit :

1^{re} période.—Les évacuations commenceront dans dix jours après l'échange des ratifications du Traité de Paix et seront achevées dans quatre mois.—

Les forces japonaises en Manchourie sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Hsin-min-tin, Moukden, Fushun, Hsengking, Hwai-jen et Chhosan, et les forces japonaises à la frontière russo-coréenne sont à se retirer à la rive droite de la rivière de Toumen.

Les forces russes en Manchourie sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Petuna, Tao-lai-chao, Shan-ho-tun, Omoso et Hunchun, et les forces russes à la frontière russo-coréenne sont à se retirer à la rive gauche de la rivière de Toumen.

2^{me} période.—Les évacuations seront achevées dans quatre mois suivant l'expiration de la 1^{re} période.—

Les forces japonaises sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Niu-cha-tun, Ta-shih-kiao, Hsiuyen, Feng-hwag-cheng et la bouche de la rivière d'Anping (Anping-ho).

Les forces russes sont à se retirer dans les limites de la ligne qui joigne Hu-lar-chi, Tsi-tsi-har, Merguen et Aihun.

3^{me} période.—Les évacuations seront achevées dans deux mois suivant l'expiration de la 2^{me} période.

Les forces japonaises sont à se retirer dans les limites du territoire de Liao-tong cédé à bail et de la frontière de Corée.

Les forces russes sont à se retirer dans les limites du territoire russe.

L'Article Additionnel ci-dessus sera considéré comme ratifié par la ratification du Traité de Paix.

第六號

The Plenipotentiaries of Japan propose with a view to make provision for the due protection of the Japanese and Russian railways in Manchuria, and at the same time in order to avoid giving grounds for misunderstanding, that an arrangement to the following effect be concluded by means of a protocol to be annexed to the Treaty of Peace:

Until such time as China is able and ready to assume and fulfill the duty, the Imperial Governments of Japan and Russia reserve to themselves the right to maintain railway guards for the due protection of their respective Manchurian railway lines, properties and traffic. The two Governments, however, reciprocally engage that the guards to be so maintained, shall not in any case exceed five persons to each kilometre of railway.

第七號

(Traduction)

Les Plénipotentiaires du Japon, ayant en vue de faire une disposition pour la protection voulue des chemins de fer japonais et russe en Manchourie, et afin d'éviter en même temps, toute cause de malentendu, proposent qu'un arrangement à l'effet suivant soit conclu au moyen d'un protocole qui sera annexé au Traité de Paix :

Jusqu'à ce que la Chine soit capable et prête à assumer et à exécuter son devoir, les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie se réservent le droit de maintenir les gardes du chemin de fer pour la protection voulue de leurs chemins de fer manchouriens, propriétés et trafics respectifs. Les deux Gouvernements, toutefois, s'engagent réciproquement que les gardes qui seraient ainsi à maintenir, n'excéderont en aucun cas cinq hommes par chaque kilomètre du chemin de fer.

第八號

As soon as possible after the exchange of the ratifications of this Treaty, all prisoners of war shall be reciprocally restored. The Imperial Governments of Japan

and Russia shall each appoint a special commissioner to take charge of prisoners. All prisoners in the hands of one Government shall be delivered to and received by the special commissioner of the other Government, in such convenient numbers and at such delivering port or ports of the delivering state as such delivering state shall notify in advance to the special commissioner of the receiving state. The Governments of Japan and Russia shall present to each other within days after the delivery of prisoners has been completed, a statement of the expenditures respectively incurred by them for the care and maintenance of prisoners from the date of capture or surrender up to the time of death or delivery. Russia engages to repay to Japan within days after the exchange of the statements as above provided, the difference between the actual amount so expended by Japan and the actual amount similarly disbursed by Russia.

第九號

(Traduction)

Aussitôt que possible après l'échange des ratifications de ce Traité, tous les prisonniers de guerre seront réciproquement restitués. Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie nommeront, chacun de son côté, un commissaire spécial qui se chargera des prisonniers. Tous les prisonniers se trouvant dans les mains d'un Gouvernement seront remis au commissaire de l'autre Gouvernement ou à son représentant dûment autorisé qui les recevra en tels nombres convenables et à un tel ou tels ports convenables de l'Etat qui les remettra, que cet Etat notifiera d'avance au commissaire spécial de l'Etat qui les recevra. Les Gouvernements du Japon et de Russie présenteront l'un à l'autre, dans jours après que la remise des prisonniers aura été achevée, un compte rendu des dépenses faites respectivement par eux pour le soin et l'entretien des prisonniers depuis la date de la capture ou de la reddition jusqu'à celle de la mort ou de la remise. La Russie s'engage à rembourser au Japon, dans jours après l'échange des comptes rendus comme il est stipulé ci-dessus, la différence entre le montant réel ainsi dépensé par le Japon et le montant réel également déboursé par la Russie.

第十號

All Treaties of Commerce between Japan and Russia having been annulled by the war, the Imperial Governments of Japan and Russia engage to adopt as the basis of their commercial relations, pending the conclusion of a treaty of commerce

0341

and navigation, the system of reciprocal treatment on the footing of the most favoured nation in which are included import and export duties, customs formalities and transit and tonnage dues and the admission and treatment of the agents, subjects and vessels of one country in the territories of the other.

The Imperial Russian Government agree to the appointment of a regular Japanese consul to reside at Vladivostock.

第十一號

(Traduction)

Tous les traités de commerce entre le Japon et la Russie ayant été annulés par la guerre, les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie s'engagent à adopter comme base de leurs relations commerciales, pendant la conclusion d'un traité de commerce et de navigation, le système du traitement réciproque sur le pied de la nation la plus favorisée, y compris les tarifs d'importation et d'exportation, les formalités de douane, les droits de transit et de tonnage et l'admission et le traitement des agents, des sujets et des vaisseaux d'un pays dans le territoire de l'autre. Le Gouvernement Impérial de Russie consent à la nomination d'un consul régulier Japonais qui réside à Vladivostock.

第十二號

The Imperial Governments of Japan and Russia, with a view to promote and facilitate intercourse and traffic, will, as soon as possible, conclude a separate convention for the regulation of their connecting railway services in Manchuria.

第十三號

(Traduction)

Les Gouvernements Impériaux du Japon et de Russie, en vue de favoriser et de faciliter des rapports et le trafic, concluront, aussitôt que possible, une convention séparée pour le règlement de leurs services de raccordement de chemins de fer en Manchourie.

第十四號

Telegraphic exemplifications of this Treaty shall be submitted to His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the Emperor of Russia for approval and certificates that approval has been accorded, shall be exchanged between the Representatives of Japan and Russia at as soon as possible, and not later than days from the date hereof. Such approval shall take the place of ratification and shall, in all respects, have the same value and effect as ratification and from the date of the certificates above mentioned, the said Treaty shall enter into full force and vigour and be binding in all its parts.

第十五號

(Traduction)

Les ampliations télégraphiques de ce Traité seront soumis à Sa Majesté l'Empereur du Japon et à Sa Majesté l'Empereur de Russie pour leur approbation, et les certificats constatant que cette approbation a été accordée seront échangés entre les Représentants du Japon et de Russie à aussitôt que possible, et pas plus tard que dans.....jours de la date du présent. Cette approbation tiendra lieu de la ratification et aura, sous tous les rapports, la même valeur et le même effet que la ratification, et à partir de la date des certificats susmentionnés, le dit Traité entrera en pleine vigueur et sera obligatoire dans toutes ses parties.

第十六號

In the morning sitting of August 29th, complete agreement in principle on all points has been arrived at by the Conference and it has been decided to proceed to elaborate the details.

In the afternoon sitting of August 29th, the Conference has discussed the details of the Treaty of Peace. It has been decided to entrust the drafting of the Clauses of the Treaty to M. Denison, Legal Adviser to Foreign Office of Japan and Privy Councillor de Martens of the Foreign Office of Russia so as to finish the work as soon as possible.

二百一十

0343